

成果指標				
成果指標	当該年度の果樹育成袋(園地面積)・栗剪定(園地面積)・苗木(植栽面積)・パーク堆肥(投入面積)の各実施面積の累計/当該年度の各実施計画面積の累計(目標数値)×100			
指標設定の考え方	各実施計画面積(目標数値)に対する各実施面積を測定することにより、優良品種の導入や生産体制整備等について効果を測る。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	100%以上	100%以上	0	0
実績	94.5%	94.2%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	事業主旨に沿って実績も高く、本市の農業活性化に貢献しており認められる課題はない。なお、時流に応じた本事業のメニュー検証により、農業者がより必要としている新たなメニューが伺える場合は、変更について検討する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	本市の農業情勢を勘案した施策として有効であり、今後も継続して推進して行きたい。現在、本市を代表する農作物のブランド化に向けた積極的な取り組みを行ううえで、新たな支援策も本農業振興センター内で協議・検討が必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題